FILE
038

全国ビルメンテナンス協会会員企業から期待のホープが登場

Hope

金崎石親

Kanazaki Kenji

株式会社トップス
代表取締役

多様で役に立つ
ユーティリティ能力の高い人材を育てることが、
ビルメンテナンスの未来になります。

――金崎社長は、社会人になられた当初はホテルに勤めていたそうですね。

金崎　ええ、高校を卒業して秋田から上京し、東京・虎ノ門にあったホテルで、ホテルマンになりました。

最初はレストランのボーイ、次にフロントを担当したのですが、ホテルの子会社にベッドメイクなどを行うビルメンテナンス会社がありまして、そこの担当者が偶然秋田出身ということもあり、仲良くなったのです。

で、その当時私は、ホテルを維持している裏方や現場の仕事に興味を持ち始めていたもので、会社に頼んでその子会社であるビルメンテナンスに転職したのです。

Total（総合的）、Original（独創的）、Planning（企画立案）、Specialist（専門的）の頭文字を取って名付けられた、株式会社トップス（TOPS）。環境と建物・人に優しいメンテナンスの実現を目指して活動している。

Text = Ichiro Uchino　Photo = Shinichi Watanabe

INTERVIEW WITH Hope

（写真上）現在、秋田県ビルメンテナンス協会の会長も務める、トップス代表取締役の金崎氏。18歳で上京し東京虎ノ門にあるホテルに就職した後、そこで知ったビルメンテナンスの世界に興味を持ち、ビルメンテナンス企業に転職。その後、郷里秋田市の支店長を経て、38歳で独立した。（写真下）秋田県を本拠地として、清掃ビジネスのレベルアップを目標にしてきたトップス。同社内にはビルクリーニング技能向上のためのトレーニングスペースが完備されている。

――え?!　わざわざ子会社に異動したのですか?

金崎　はい。それが私とビルメンテナンスとの出会いです。そしてホテルに関わるビルメンテナンスの仕事を覚えながら、そこで働いている人たちと交わり、あるいはホテルが新しく建てる建物の件でゼネコンの人たちと議論したりしながら、どんどんビルメンテナンスの仕事に熱中していきました。でもそのうち、もっと深い部分が知りたくなりまして…。

――ビルメンテナンスのもっと深い部分?

金崎　ホテルの子会社ですから、ビルメンテナンスの仕事もたとえば清掃などは下請けの会社にアウトソーシングしているわけです。そのアウトソーシングしている中身である、現場の仕事に興味が出てきたわけです。そこで今度は、その下請け会社に転職することにしました。

――そもそものオーナーであるホテルをスタートに、上から下へ、下へと、進んでいったわけですね。それは凄い。

金崎　なんでも自分でやってみないと納得できない性分で、今もそうですが、現業が理解できないと正しく物は言えないと思っていま す。それに当時はビルに関わる裏方の仕事も、たとえば電気工事などは知られていましたが、ビルメンテナンスという職種はよく知られていませんでした。現場に若い人間もほとんどいなかったですね。けれど仕事先も仕事量もありますし、ビルメンテナンスはこれから伸びていく業種だなと思いました。

　その後、必要な資格を取得し、現場の仕事も充分に覚えて、このビルメンテナンス会社が秋田支店を出すことになったため、支店長として郷里に戻ることになりました。そこで秋田支店をメインに、仙台・盛岡と営業展開していきました。まだ20代の頃です。その後十数年、支店長時代を送るうちに、秋田のビルメンテナンスのレベルをもっと上げたいと思うようになり、そのためにも自分の考えるビルメンテナンスの在り方を実現したいと考えました。

――そこで独立されたのですね。

金崎　38歳の時に、創業しました。最初は清掃が中心です。次に設備、警備と徐々に領域を広げ、3年ほどで形が整いました。

　その頃は金融危機に見舞われていた1999年頃のことですので、あまり恵まれた時代ではなかったのですが、入札条件などはオープンになってきたので私には追い風でした。そのチャンスをしっかりと掴んで着実に実行してきました。

　これは今の若い世代の方たちにぜひ伝えたいことなのですが、私が秋田にビルメンテナンス従事者として戻ってきた当時も、私のような若い世代のビルメンはほとんどいませんでした。けれど仕事を続けながら、ビルクリーニング技能競技会のような大会などを通じて、志を持ってビルメンに打ち込んでいる他の人たちと出会えたり、仲間を増やせたり、それらが私の起業の原動力の一部にもなりました。ですのでビルメンテナンスの仕事に興味を持ったら、まずは始めてみて、資格も取ってみて、目の前にあるチャンスを生かしてほしい。こちらもそのための場を用意して、チャンスを与え、応援します。

　私のやってきたビルメンテナンスの仕事というのは、さまざまな人の役に立つことであり、有用で、公益性の高いことで、そういった意味でビルメンテナンスは多様な「ユーティリティ」を提供する仕事なのだと思っています。

だから清掃の現場でもスタッフの方には1つの現場だけではなく、2つか3つの多様な現場ができるように指導しますし、営業職にも「営業だけの仕事はいらない、現場もできなければ意味がない」と話し、清掃だけでなく設備も警備もできるように資格を取得させ、教育しています。

――ユーティリティ能力の高い人材を育てたいということですね。

金崎　そうです。清掃だけ、設備だけのように仕事を狭めるのではなく、多様なことができる人材を育てることによって、このビルメンテナンス業界に与えられる将来が開拓し続けられると思います。ビルメンテナンス企業のメリットや付加価値も、多様なユーティリティを育てていくことから生み出していけるのではないでしょうか。

付加価値を育てるということで言えば、たとえばビルクリーニング資格なども一度取得したら大丈夫ということではなく、数年に一度更新が必要だということにすれば、更新をきっかけにさらに上の資格取得を目指すなど、従事者の成長を刺激できるのではないかと思います。そういった制度自体の根本を変える必要も、これからはあるような気がします。

1.秋田駅からクルマで約10分ほどの所にあるトップス本社。「もっと人に優しく、もっと環境に優しく。」をスローガンに、清掃、設備、環境衛生、警備その他の4つの柱で事業を展開している。従業員数は150名。免許や資格取得など社員教育にも熱心に取り組んでいる。2.トップス本社ビルの壁面に掲示されている、同社キャラクターのクロザル(黒猿)。愛嬌のある表情が心をなごませる。トップスの会社理念は「有言即行」。動作俊敏なサルのように迅速にビルオーナーのニーズに対応し、総合ビルメンテナンスを提供することがモットーだ。3.トップスでは、平成15年6月に第8回全国ビルメンテナンス技能競技会・東北地区予選準優勝以降、第13回、14回、15回と連続して全国ビルメンテナンス技能競技会で建築物管理訓練センター理事長賞を受賞している。4.有益な人材育成を続けるためには、社員への慰労やコミュニケーションが大切だ。同社では周年祝賀会などの行事も行いながら社員全員の気持ちを活性化し、ビルメンテナンスマインドと技術両面での研鑽を心掛けている。

――労働力の点では、高齢者の方たちの雇用の仕方も大切ですね。

金崎　高齢者の方たちは「働きたい」方たちが多いです。けれど身体の故障もいろいろ出てくる世代です。

その方たちのために楽しく働いてもらうためには、たとえば3回拭くところを1回で済むようにする方法とか、身体のサポートをする道具・ロボットの導入など、もう少し楽にできる作業形態を考える必要があります。「高齢者と共存する働き方」が重要です。

ビルメンテナンスを取り巻く状況は日々変わり、ビルオーナーからのニーズも、働き手の量も質も変化してきています。清掃の世界はその変化を吸収しながら、「現場で働く人の意欲」を、効果的に活かせるように考えていくべきだと思います。

Corporate Information

株式会社トップス

本社：〒010-0811 秋田県秋田市泉釜ノ町22-13　TEL：018-869-9505　FAX：018-869-9506　仙台支店：〒981-0933 宮城県仙台市青葉区柏木1-2-45 フォレスト仙台8F　TEL：022-397-9290　FAX：022-397-9291　創立：平成11年6月　代表取締役：金崎石親　事業内容：店舗・事務所・ビル・学校・マンション等の清掃／施設内の保安警備・交通誘導／駐車場管理／ホテルの客室清掃、整備／各種設備点検・保守・衛生管理／建築・設備工事／太陽光発電設備のメンテナンス　https://www.topsboy.com

Hope登場会員募集!!　Hope取材ご希望の会員企業様を募集します。自社の取り組みや活動、連絡先をご記入の上、右記までご連絡ください。　**月刊ビルメン編集部　Hope係　bmm_info@j-bma.or.jp**